

# 令和8年度 定期総会資料 別冊

令和7年度  
部会等活動報告

令和8年5月



北陸情報通信協議会

## も く じ

I C T安心安全部会報告	-----	1
G空間×I C Tまちづくり推進部会報告	--	11
イノベーション部会報告	-----	21
北陸サイバーセキュリティ連絡会報告	---	28

# 令和7年度 ICT安心安全部会報告

令和8年5月

## ICT安心安全部会・令和7年度活動方針



テーマ:「センシング技術から情報処理・通信技術・サイバーセキュリティにわたる広範囲のICTを駆使した先進的な安心・安全ICT技術の発展・普及」の推進

北陸地域における防災・災害対策及びサイバーセキュリティ、その他の安心・安全に係るICTの発展・普及に関する取組をさらに促進するため、次の活動を行う。

- ① 会員のニーズを踏まえた、サイバーセキュリティに関する情報を整理し、周知啓発活動を行う。
- ② 地域と連携して、企業経営者や担当者向けにサイバー攻撃からの対処を学ぶセミナーや、実戦的な演習を行う。
- ③ 防災・災害対策に有効なICTシステムについて調査研究を行う。
- ④ 安心安全ICTシステムについて地域への展開を図り、実証を行う。
- ⑤ サイバーセキュリティ以外の情報セキュリティについて情報交換を行うとともに、周知活動について検討を行う。

部会長	一般社団法人いしかわエネルギーマネジメント協会 四藤 一成
構成員	13名(地方自治体2、企業8、研究機関1、有識者2)
活動状況	<p><b>1 防災情報通信講演会(共催)</b>                  令和7年6月27日(金) 場所:石川県政記念しいのき迎賓館                  北陸地方非常通信協議会及び総務省北陸総合通信局との共催により、防災関係機関や情報通信関係団体などを対象とし、災害発生時の対応について理解を深めてもらうことを目的として、防災情報通信講演会を開催した。                  演題:能登半島地震と奥能登豪雨災害の現状                  講師:珠洲市危機管理室長 女田 良明 氏</p> <p><b>2 第11回会合・勉強会 ※レポート記事あり</b>                  令和7年9月19日(金) 場所:北陸総合通信局会議室                  【議事】 (1) 勉強会(講演会)                  演題:能登半島地震・奥能登豪雨におけるNTT西日本の取り組み                  講師:NTT西日本(株)北陸支店 ビジネス営業部 本部長 藤本 章夫 氏                  (2) ICT安心安全部会の当面の取り組みについて</p> <p><b>3 音声Web配信システムの実証実験・アンケート調査(富山県総合防災訓練) ※レポート記事あり</b>                  令和7年9月28日(日) 場所:南砺市城南パーク                  富山県総合防災訓練(南砺市)において、一般社団法人テレコムサービス協会北陸支部の協力を受け、「音声Web配信システム」を使用して災害情報発信の実証実験とアンケート調査を行った。                  アンケート調査の結果から、同システムの有効性が確認された。</p>

活動状況	<p><b>4 奥能登被災地視察・意見交換会</b>                  令和7年10月24日(金) 場所:輪島市内                  G空間×ICTまちづくり推進部会が実施する奥能登被災地視察・意見交換会へ参加し、輪島市門前総合支所及び町野復興プロジェクト実行委員会を訪問した。</p> <p><b>5 高齢者向けスマホの安心安全勉強会(協力)</b>                  令和7年11月15日(土) 場所:黒瀬谷公民館(富山市八尾町)                  一般社団法人テレコムサービス協会北陸支部が富山県警等の協力により富山市黒瀬谷地区で開催した高齢者等スマホ勉強会の開催に協力した。</p> <p><b>6 「ビジネス」を護るサイバーセキュリティデイズ2026(共催) ※レポート記事あり</b>                  令和8年2月16日(月) 場所:金沢東急ホテル 17日(火) 場所:金沢商工会議所                  サイバーセキュリティに関するスキルと意識の向上を目的として、企業・組織に所属するすべての方々を対象に、最新のサイバー攻撃事案等を解説するセミナーと、実践的な演習を併せて開催した。</p> <p><b>7 第12回会合・勉強会</b>                  令和8年3月9日(月) 場所:石川県文教会館                  【議事】 (1) 令和7年度活動報告(案)について                  (2) 令和8年度活動計画(案)について                  【サイバーセキュリティに関するセミナー】                  サイバーサクラの取り組みと最近のサイバー攻撃の動向に関するセミナーを実施した。なお、セミナーは、同日開催された「北陸サイバーセキュリティ連絡会」と合同で開催した。                  演題:サイバーサクラの取り組みと最近のサイバー攻撃の動向について                  講師:株式会社ict4e 代表取締役 原 秀一 氏</p>
------	--

活動状況	<p>8 サイバーセキュリティニュースの発行等</p> <p>令和7年4月から令和8年3月</p> <p>国家サイバー統括室(NCO)が発行する「NCO重要インフラニュースレター」を、4月から月2回、会員に情報提供するとともに、「NCO重要インフラニュースレター」の中からICT安心安全部会でトピックを抽出して解説する独自の「サイバーセキュリティニュース」を4月から月1回発行した。(令和7年度から通年で発行)</p>
------	---

## 令和7年度活動

	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
部会活動						▲ 9/19 第11回ICT安心安全部会・ 勉強会(防災・災害対策)						3/9▲ 第12回ICT安心安全部会・ セミナー(サイバーセキュリティ)
						▲ 9/28 音声Web配信システムの 実証実験・アンケート調査			▲ 11/15 高齢者等スマホ勉強会			▲ 2/16,17 サイバーセキュリティ デイズ2026
			▲ 6/27 防災情報通信講演会					▲ 10/24 奥能登被災地視察・意見交換会				
	← サイバーセキュリティニュースの発行(通年) →											

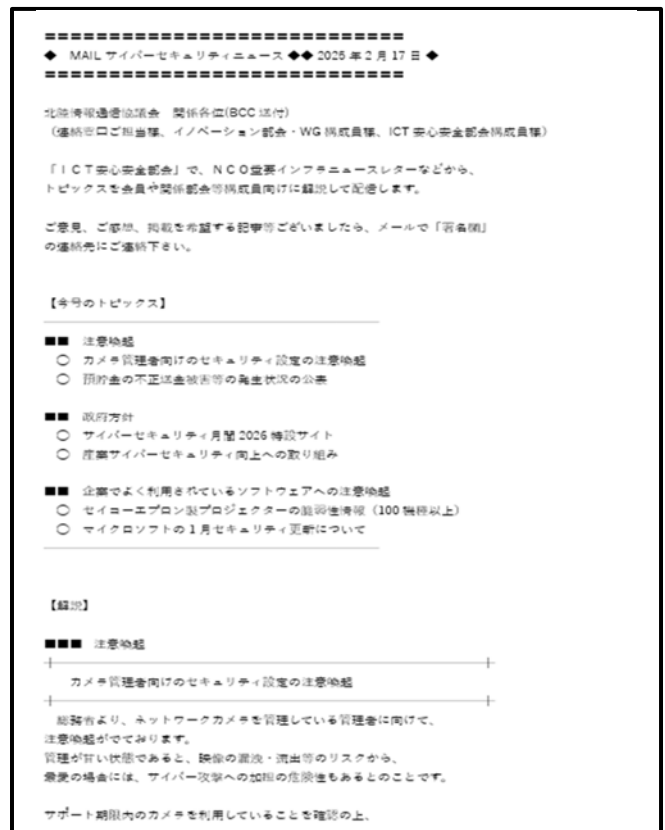
## サイバーセキュリティニュースの発行

北陸情報通信協議会ICT安心安全部会では、前年度に引き続き令和7年4月から月に1回、会員向けにサイバーセキュリティの時事情報などのニュース解説を行う「サイバーセキュリティニュース」を、電子メールで発行しました。(令和7年度から通年で発行)

本サイバーセキュリティニュースは、NCO重要インフラニュースレターや時事のトピックスの中から、部会構成員の投票によりテーマを絞り込み、株式会社ict4eの原構成員が「ソフトウェア等への注意喚起」「政府等の方針」「振り返り」など分野別に、背景、内容、今後注意すべき点などを解説しているものです。

本サイバーセキュリティニュースは、北陸情報通信協議会の連絡担当者、ICT安心安全部会構成員、イノベーション部会・WG構成員の皆様にご配信しています。

なお、本サイバーセキュリティニュースの発行は、令和8年度においても引き続き実施します。



サイバーセキュリティニュース  
(令和8年2月発行) 抜粋



## Seminar Day (サイバーセキュリティセミナー)

開催日：令和8年2月16日  
会場：金沢東急ホテル



パネルディスカッション 第2部の模様



### 【ファシリテーター】

- 篠田 陽一 氏  
北陸先端科学技術大学院大学  
情報環境・DX統括本部  
遠隔教育研究イノベーション  
センター 特任教授



### 【パネリスト】

- 中西 克彦 氏  
(株)FFRIセキュリティ yarai事業本部  
セキュリティサービス担当 副本部長
- 川口 洋氏  
(株)川口設計 代表取締役

- 高江 茂氏  
NECソリューションイノベータ(株)  
第一サイバーセキュリティ統括部  
第二LCMグループ シニアプロフェッショナル
- 高 穂菜氏  
ウイルフラップ(株) 代表取締役
- 町 友貴氏  
ウイルフラップ(株) 情報システム担当

北陸情報通信協議会(会長：金井 豊 北陸経済連合会会長)は、総務省北陸総合通信局、(国研)情報通信研究機構(NICT)、経済産業省中部経済産業局、北陸経済連合会及び北陸サイバーセキュリティ連絡会との共催により、2月16日、17日の2日間にわたりセミナーと演習から構成する『『ビジネス』を護るサイバーセキュリティデイズ2026』を開催しました。

1日目のSeminar Dayは、サイバーセキュリティセミナーを2部形式のパネルディスカッションとして開催し、約50名が参加しました。

第1部は『『小さな会社は狙われない』は本当か?～地方中小企業を蝕むサイバー攻撃のリアル～』をテーマに、北陸先端科学技術大学院大学の篠田特任教授をファシリテーターに迎え、パネリストの中西氏と川口氏から、国内におけるサイバー攻撃の実態や、その脅威から会社を守るための対策についてご講演いただき、ディスカッションが行われました。

第2部は、高江氏、高氏及び町氏をパネリストに加え、『あれから1年、どう変わった?～ローコストから始めた中小企業のサイバー防戦記～』と題して、昨年のセミナー以降、ウイルフラップ(株)が社内で取り組んだ対策や、情報システム担当者の実務レベルでの課題などについて、多角的な観点から意見が述べられ、活発な議論が交わされました。

2日目のPractice Dayは、サイバー攻撃に対処する能力の向上を図る実践的演習「Micro Hardening」を開催しました。講師である(株)川口設計の川口氏の指導のもと、組織のサイバーセキュリティ担当者等の11名が3チームに分かれ、架空の電子商取引サイトに対する様々なサイバー攻撃への対処方法を実地形式で学びました。演習と振り返りの1セット75分を3セット実施することで、様々な対処方法を試し、エンジニアとしての能力を磨きました。

その後、NICTナショナルサイバートレーニングセンターの横山氏から25歳以下を対象にした創造的なセキュリティ人材育成プログラム「SecHack365」について説明がありました。

## Practice Day (Micro Hardening)

開催日：令和8年2月17日  
会場：金沢商工会議所



Micro Hardening (サイバー攻撃対処トレーニング)に取り組み参加者



(株)川口設計 代表取締役  
川口 洋氏



NICTナショナルサイバートレーニングセンター  
横山 輝明 氏

# 北陸情報通信協議会 ICT安心安全部会(第12回)を開催

～ 令和7年度の活動報告・令和8年度の活動方針(素案)を議論 ～

ICT安心安全部会(部会長：四藤 一成(一社)いしかわエネルギーマネジメント協会)は、令和8年3月9日(月)石川県文教会館において、第12回会合を開催し、オンライン参加を含め13名が参加しました。事務局から令和7年度の活動について報告を行い、その後、令和8年度の活動計画について議論しました。

令和8年度の活動計画のうち、「奥能登被災地視察・意見交換会」については、令和7年度にG空間×ICTまちづくり推進部会が実施した視察・意見交換会に参加した方から、「現地の方からの話を聞くことができ、非常に有意義であった。ICT安心安全部会での実施に向けて調整願いたい。」との意見が出されました。また、「能登の復興のためには、視察・意見交換会後に結果をフィードバックすることが必要」との意見が出されました。

サイバーセキュリティ関連では、フィッシングメール対策についてメールマガジンを活用して情報発信を行うとともに、サイバーセキュリティ関係団体などとの連携を図りながらセミナーの開催についても検討していくことを確認しました。

最後に、令和8年度の活動テーマ・活動方針・スケジュールを確認し、次回の部会でさらに具体化を図ることを確認しました。令和8年度の活動テーマは右のとおりです。



ICT安心安全部会  
四藤 一成 部会長

### ■令和8年度の活動テーマ

「センシング技術から情報処理・通信技術・サイバーセキュリティにわたる広範囲のICTを駆使した先進的な安心・安全ICT技術の発展・普及」の推進

## サイバーセキュリティに関するセミナーを開催



セミナーで講演する  
(株)ict4e 代表取締役 原 秀一 氏

会合の前段には、ICT安心安全部会と北陸サイバーセキュリティ連絡会(座長：丹 康雄 北陸先端科学技術大学院大学副学長・教授)との合同で、サイバーセキュリティに関するセミナーを開催しました。

演題：「サイバーサクラの取り組みと最近のサイバー攻撃の動向について」

講師：株式会社 ict4e  
代表取締役 原 秀一 氏



ICT安心安全部会  
第12回会合の前段  
に実施したセミナー  
の様子

# 令和7年度 G空間×ICTまちづくり推進部会報告

令和8年5月

## 令和7年度 G空間×ICTまちづくり推進部会 活動結果(1)



部会長	青山学院大学 教授 飯島 泰裕
副部会長	NPO法人日本海国際交流センター副理事長 大藪 多可志 国際高等専門学校 校長 鹿田 正昭
会 員	36名(学識経験者4、地公体7、企業18、団体2、国5) ※うち、北陸情報通信協議会会員以外のオブザーバー参加8名
活動状況	<p>1 第7回「北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会」に社会実装者として参画 令和7年7月17日(木) G空間部会から17名参加 ※ Web参加と現地参加(北陸総合通信局第1会議室)のハイブリッド方式</p> <p>【議事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) デジタルインフラ整備計画2030について</li> <li>(2) 5G等のインフラ整備の地域ニーズと事業者とのマッチング案件等について</li> <li>(3) 携帯電話事業者の非地上系ネットワーク(NTN)の取組</li> <li>(4) ICTを活用した地域課題解決の優良事例、取組の紹介 「富山県で生まれたクマ対策DX」</li> <li>(5) 総務省地域社会DX推進パッケージ事業の採択状況</li> </ul> <p>2 第29回部会 令和7年7月25日(金)～7月31日(木)(書面審議)</p> <p>【議事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ICTまちづくりに関する情報交換会(第9回)について</li> <li>(2) 部会で共催するイベントについて(HIT-2025) ※ HIT-2025 : Hokuriku Innovation Trial-2025</li> </ul> <p>【主な審議内容】</p> <p>第9回「ICTまちづくりに関する情報交換会について、能登半島地震・豪雨災害後の現状視察及び意見交換会として開催することとしました。また、第12回G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクールについて、HIT-2025と共催することを確認しました。</p>

活動状況	<p>3 第9回「ICTまちづくりに関する情報交換会」                  令和7年10月24日(金)                  輪島市にて奥能登被災地視察・意見交換会を行いました。G空間部会からは6名、HICC会員及び事務局から11名の計17名が参加しました。</p> <p>【プログラム】                  (1) 輪島市門前町 黒島漁港 見学                  ・地震で大きな隆起(4m)があった海岸や国の重要伝統的建造物群保存地域に指定されている「黒島地区」を見学                  (2) 輪島市門前町総合支所の説明と意見交換                  (3) 国道249号線・輪島朝市・白米千枚田 見学                  (4) 町野復興プロジェクト実行委員会の説明と意見交換                  (5) 輪島市町野「臨時災害放送局」見学</p> <p>4 第12回「G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール」(HIT-2025)                  令和7年11月29日(土) 現地参加(福井県織協ビル)とweb参加のハイブリッド方式</p> <p>【結果概要】                  第12回「G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール」をHIT-2025と共催しました。                  キャンパス部門17チーム、ビジネス部門7チームのプレゼンテーション、審査を経て、「ICTまちづくり賞」及び「ICTシビックプライド賞」の各2賞、計4賞を決定しました。</p> <p>【ICTまちづくり賞 受賞者】 プレゼンター:G空間×ICTまちづくり推進部会 飯島 泰裕部会長                  ・北陸大学 ものづくりLab …………… 「遅刻予報+~AIがあなたの“時間の無駄”を予測する~」                  ・金城大学 平子ゼミ …………… 「RUNTAP(ランタップ)逃げる勇気をワンタッチで」</p> <p>【ICTシビックプライド賞受賞者】 プレゼンター:G空間×ICTまちづくり推進部会 大藪 多可志副部会長                  ・石川工業高等専門学校 三吉研究室 …………… 「ぱ~となる 災害時物資消費予測・備蓄管理支援システム」                  ・北陸大学 森田ゼミ …………… 「ドローンとAIを活用したスマート農業の可能性」</p>
------	---

活動状況	<p>5 第8回「北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会」に社会実装者として参画                  令和8年2月26日(木) G空間部会から13名参加                  ※ Web参加と現地参加(北陸総合通信局第1会議室)のハイブリッド方式</p> <p>【議事】                  (1) 開催要綱の改訂について                  (2) 5G等のインフラ整備の地域ニーズと事業者とのマッチング案件等について                  (3) ICTを活用した地域課題解決の取組紹介                  ①福井県若狭町                  「若狭町スマートエリア開発事業~地域BWAを活用して地域の安心安全を確保~」                  ②富山県朝日町                  「官民地域共創によるこれからの公共サービスの実現~一人ひとりが住みたい場所に住み続けるために~」                  (4) 特別講演 AI時代の新たなデジタルインフラ整備の推進                  「IOWN最新動向」                  (5) ICT利活用施策紹介                  ①総務省の支援施策 ②農林水産省 スマート農業推進施策</p> <p>6 第30回部会                  令和8年3月10日(火)~3月16日(月)【書面審議】</p> <p>【議事】                  (1) 令和7年度活動報告(報告事項)                  (2) 令和8年度活動方針(審議事項)</p> <p>【主な審議内容】                  事務局から、令和7年度活動報告・令和8年度活動方針の提案を行い、書面審議にて承認されました。</p>
------	--



北陸情報通信協議会G空間×ICTまちづくり推進部会（部会長：飯島泰裕青山学院大学教授）は、令和7年7月17日（木）に、北陸総合通信局の会議室及びオンラインによるハイブリッド方式で開催された、「第7回北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会」に参加しました。

この協議会は、北陸地域における「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、5G等の通信基盤整備に資するため、地方公共団体、通信事業者等との間において、地域におけるデジタル実装と通信基盤整備のマッチング等の推進を目的としており、G空間部会は同協議会の社会実装関係者として参画しており、オンライン参加を含め17名が出席しました。

第7回会合では、令和7年6月に策定された総務省「デジタルインフラ整備計画2030」の説明や、StarlinkやHAPSなど災害時の活用も期待される非地上系ネットワーク（NTN）の取り組みについて、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイルの各社から、特徴や活用事例について説明がありました。

また、ICTを活用した地域課題解決の取組紹介として、「富山県で生まれたクマ対策DX」と題して、システムの開発に携わった（株）ほくつう福井支社の森将光氏と、北陸電力（株）新価値創造研究所の橋本茂男氏が、赤外線センサーを搭載した自動撮影カメラ（トレイルカメラ）とAI技術を活用したシステムを紹介。北陸3県の全自治体を訪問し、現場の困りごとや課題について会話を重ねながら、デジタル技術のプロと野生動物管理のプロが丸となって、DXの実用性を持続的に発展させたプロセスを紹介しました。

質疑応答では、トレイルカメラ画像の伝送は携帯電話の回線を使用していることや、システムの導入は北陸3県を中心に全国に広がっている旨の説明がありました。

当部会では、社会実装関係者として、引き続き北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会に参画していきます。

### 【議事】

- 1 デジタルインフラ整備計画2030について
- 2 5G等のインフラ整備の地域ニーズと事業者とのマッチング案件等について
- 3 携帯電話事業者の非地上系ネットワーク（NTN）の取組
- 4 ICTを活用した地域課題解決の優良事例、取組の紹介  
「富山県で生まれたクマ対策DX」
- 5 総務省地域社会DX推進パッケージ事業の採択状況



正面 大藪副部会長（左） 片山北陸総合通信局長（右）  
飯島部会長はオンラインで参加



クマ対策システムの導入実績について質問する  
大藪副部会長



北陸情報通信協議会G空間×ICTまちづくり推進部会（部会長：飯島泰裕青山学院大学教授）は、令和7年10月24日（金）に、ICTまちづくりに関する情報交換会として、奥能登被災地視察・意見交換会を行い、G空間部会からは6名、HICC会員及び事務局から11名の計17名が参加しました。

### プログラム

- ◆ 輪島市門前町 黒島漁港
  - ・地震で大きな隆起（4m）があった海岸を見学。
  - ・国の重要な伝統的建造物群保存地域に指定されている「黒島地区」。
  - ・北前船で隆盛を極めた旧角海家等を見学。
- ◆ 輪島市門前町総合支所の説明と意見交換
  - 輪島市門前町総合支所長 紙谷 広光 氏
  - 輪島市門前町総合支所地域振興課 課長 野中 淳也 氏
  - 振興係長 松下 明 氏
- ◆ 国道249号線・輪島朝市・白米千枚田
  - ・車窓からの見学など。
- ◆ 町野復興プロジェクト実行委員会の説明と意見交換
  - 委員長 山下 祐介 氏
- ◆ 輪島市町野「臨時災害放送局」見学

開創700年の威厳と風格を今に伝える大本山・総持寺祖院。そのお膝元にある輪島市門前総合支所にて、令和6年元旦に発生した能登半島地震、そして同年9月の奥能登豪雨に対する復旧・復興の取り組みと課題について、お話を伺いました。



輪島市門前総合支所での  
意見交換の様子

地震発生直後、輪島市本庁と門前総合支所は道路や通信が寸断され、門前総合支所は独自に体制を構築して災害対応にあたりました。多くの建物が被害を受け、避難者が多数発生。避難所の運営や支援物資の管理には困難が伴い、例えば避難者約2,000人に対して、当期限のおにぎりが2万個（1人あたり10個）届いたこともあり、物資の過不足が課題となりました。

こうした中で、門前地域の地元自治組織や支援団体と連携しながら、一つひとつの課題に対応し、改善を進めていきました。

今後の課題としては、若い世代の人口流出や地域コミュニティの低下が挙げられました。

意見交換では、能登半島地震を踏まえた災害時の物資支援を効率化するための「新物資システム（B-PLo）」の運用開始、高齢者・障害者・観光客などの災害弱者への対応、そして震災ツーリズムについても意見が交わされました。

### その時、通信環境は・・・

各通信事業者が携帯電話移動基地局を迅速に配備。  
避難所にはStarlinkを設置し、インターネット環境を整備。



輪島市門前町総合支所  
紙谷支所長



門前総合支所地域振興課  
（左）松下係長（右）野中課長



輪島市町野支所では、町野復興プロジェクト実行委員会 委員長の山下祐介氏にお話を伺いました。

地震直後、町野地区は孤立し、停電によりテレビ・ラジオ・携帯電話も使えず、住民は“情報難民”となりました。避難所に電源車が到着し、電気が灯ったのは発災から14日後でした。

過疎と高齢化が進む町野地区で、「町野復興プロジェクト」が立ち上げられました。その一環として、高齢者の多い地域の情報不足を補うため、臨時災害放送局「まちのラジオ」が開局され、必要な情報を発信しています。

「まちのラジオ」の課題としては、運営費の補助がないこと、スタッフ不足、仮設住宅で電波が届かない場所があることが挙げられました。

能登で不足しているのは「人手」と「資金」です。復旧・復興に向けた予算や人材は確保されているものの、地域団体には十分に届いておらず、使い勝手にも課題があります。

山下氏からは、「町野に関わった人が『第二のふるさとは町野だ』と思って訪れてくれるような地域づくりを目指したい」との抱負が語られ、また、「意義ある活動への支援と協力を引き続きお願いしたい」と要望が出されました。

意見交換では、災害FMの番組構成や費用に関する質問が出され、開局・運用に必要な費用面や技術面での制度的支援について要望が述べられました。



山下委員長

臨時災害放送局「まちのラジオ」

スタジオ内の様子

### 町野復興プロジェクト実行委員会

能登半島地震（令和6年1月）と奥能登豪雨（同年9月）によって甚大な被害を受けた輪島市町野町で地域の住民有志が立ち上げた団体。

- 設立時期：能登半島地震から約1か月後の令和6年2月。
- 目的：被災後の復旧・復興だけでなく、住民主体で「住みたいまち」「ワクワク楽しいまち」をつくることを目指す。
- 主な活動

#### イベント開催による地域再生

「桜フェス」「肉フェス」「浜開き」など、住民やボランティアが集まれる場を企画し、地域の絆を再構築。

#### ボランティアセンター運営

豪雨被害後、行政や社協だけでは対応しきれない状況を補うため、住民主導の「まちなじボラセン」を設立。泥かきや家庭菜園の復旧など、地域密着型の支援を実施。数千人規模のボランティアを受け入れ。

#### 情報発信・防災支援

臨時災害FM「まちのラジオ」を開局し、高齢者や地域住民に必要な情報を届ける取り組みを開始。

#### 将来のまちづくり

少子高齢化や人口減少を踏まえ、コンパクトシティ構想や地域復興イベントを検討。ビーチスポーツやライドシェアなど、復興後の持続可能な地域づくりを目指す。

**単なる災害復旧にとどまらず、「復興の先の未来」を住民主体で描くモデルケースとして注目されています。**



## 能登半島地震、奥能登豪雨の被災地では

【令和7年10月24日撮影】



国道249号から望む輪島市の黒島漁港



黒島漁港、約4mの隆起



国の重要伝統的建造物群保存地域に指定されている黒島地区「旧角海家」も被災



車窓からの風景  
(左) 門前から輪島市街に向かう道路工事のため片側通行

(右) 国道249号  
土砂崩れで海側に道路を通す



白米千枚田 稲刈りが終わった季節



白米千枚田 奥能登豪雨で畦が流れた様子



臨時災害放送局「まちのラジオ」ベンチが置かれ、気軽に住民が寄れる雰囲気。奥の白い建物は町野町仮設商店街（訪問時、建設中）

# 第12回「G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール」 ～HIT-2025と合同で開催～



北陸情報通信協議会 G空間×ICTまちづくり推進部会（部会長：飯島泰裕 青山学院大学教授）は、令和7年11月29日（土）、福井県織協ビルとオンラインによるハイブリッドで、第12回「G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール」をHIT-2025と合同で開催しました。

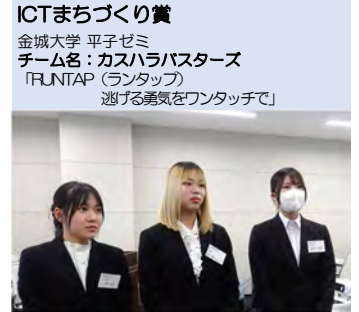
キャンパス部門17チーム、ビジネス部門7チームが、ICTを活用したサービスのアイデア、ビジネスプランのプレゼンテーションを行い、審査が行われました。「ICTまちづくり賞」は飯島部会長が、「ICTシビックプライド賞」は大数副部会長がプレゼンターをつとめました。キャンパス部門もコロナ禍を経て久しぶりの現地会場での参加となり、学生、若手社会人を含め約100名が一堂に会し、交流も深めました。



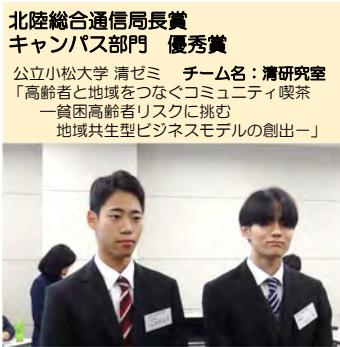
発表後の集合写真（審査員と発表者）



ICTまちづくり賞  
北陸大学 ものづくりLab  
チーム名：遅刻予報+  
「遅刻予報+  
～AIがあなたの“時間の無駄”を予測する～」  
プレゼンター HICC G空間×ICTまちづくり推進部会 飯島部会長



ICTまちづくり賞  
金城大学 平子ゼミ  
チーム名：カスハラバスターズ  
「RUNTAP（ランタップ）  
巡る勇氣をワンタッチで」



北陸総合通信局長賞  
キャンパス部門 優秀賞  
公立小松大学 清ゼミ チーム名：清研究室  
「高齢者と地域をつなぐコミュニティ喫茶  
一貧困高齢者リスクに挑む  
地域共生型ビジネスモデルの創出～」

プレゼンター  
北陸総合通信局 片山局長  
テレコムサービス協会北陸支部 細野顧問



ビジネス部門 優秀賞  
(株) ケーブルテレビ富山、(株) TAM  
チーム名：Indor dog  
「一ヤドリギー  
空き家を活用したプラットフォームサービス」

プレゼンター  
テレコムサービス協会北陸支部 上野会長



ICTシビックプライド賞  
石川工業高等専門学校 三吉研究室  
チーム名：は～となる  
「は～となる  
災害時物資消費予測・備蓄管理支援システム」

プレゼンター HICC G空間×ICTまちづくり推進部会 大数副部会長



ICTシビックプライド賞  
北陸大学 森田ゼミ  
チーム名：ドローンズ  
「ドローンとAIを活用した  
スマート農業の可能性」

プレゼンター HICC G空間×ICTまちづくり推進部会 大数副部会長

# 北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会（第8回） に社会実装関係者として参加



北陸情報通信協議会G空間×ICTまちづくり推進部会（部会長：飯島泰裕 青山学院大学教授）は、令和8年2月26日（木）に、北陸総合通信局の会議室及びオンラインによるハイブリッド方式で開催された、「第8回北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会」に参加しました。

この協議会は、北陸地域における「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、5G等の通信基盤整備に資するため、地方公共団体、通信事業者等との間において、地域におけるデジタル実装と通信基盤整備のマッチング等の推進を目的としており、G空間部会は同協議会の社会実装関係者として参画しており、オンライン参加を含め13名が出席しました。

第8回会合では、令和7年12月に「地方創生に関する総合戦略」が閣議決定されたことに伴い、本協議会の名称が「北陸デジタルインフラ整備・活用推進協議会」に変更されました。

また、ICTを活用した地域課題解決の取組紹介として、①若狭町観光まちづくり課 主査 森下敏行氏から、地域BWAを活用したスマートボールによる子ども見守りシステムについて、若狭町スマートエリア構想策定会議で議論を重ね整備し、移住・定住を促進している事例、②朝日町次世代パブリックマネジメントアドバイザーを務める(株)博報堂 畠山洋平氏から、朝日町と博報堂が官民で共創し、地域が元来もっている人の気持ち「お互い様」から生まれた公共ライドシェアサービス「ノッカル」や「やりたい・おもしろい」といった生活者価値を生み出すマイナンバーカードを活用した公共サービスパス「LoCoPi」の事例を交えながら、「地域の文化力×テクノロジー」による持続可能なまちづくりが紹介されました。

続いて、NTTドコモビジネス(株)イノベーションセンター IOWN推進室 エバンジェリスト 林雅之氏から、AI時代の新たなデジタルインフラ整備として期待される、光関連技術を活用した次世代情報通信基盤「IOWN」の最新動向について、ユースケースや社会実装の事例、今後の展開を交えての講演がありました。

当部会では、引き続き、社会実装関係者として協議会に参画していきます。

## 【議事】

- 開催要綱の改訂について
- 5G等のインフラ整備の地域ニーズと事業者とのマッチング案件等について
- ICTを活用した地域課題解決の取組紹介
  - 福井県若狭町  
「若狭町スマートエリア開発事業  
～地域BWAを活用して地域の安心安全を確保～」
  - 富山県朝日町  
「官民地域共創によるこれからの公共サービスの実現  
～一人ひとりが住みたい場所に住み続けるために～」
- 特別講演 AI時代の新たなデジタルインフラ整備の推進  
「IOWN最新動向」
- ICT利活用施策紹介
  - 総務省の支援施策
  - 農林水産省 スマート農業推進施策



正面 大数副部会長（左） 片山北陸総合通信局長（右）  
飯島部会長、部会員はオンラインで参加

若狭町のキーホルダー型の子ども見守り端末について質問する大数副部会長



# 令和7年度 イノベーション部会報告

令和8年5月

## イノベーション部会・令和7年度活動方針



テーマ：北陸地域の特徴を活かしたDX推進に向けての技術シーズによる課題解決、更にはDXの全国展開の推進

- “Society5. 0”を受けた第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえ、北陸地域におけるDXをさらに促進するため、引き続きWGを設置して活動を行う。
- 政府が進める「デジタル田園都市国家構想」や「地方創生2. 0」によるデジタル化実装を推進する。
- 「北陸サイバーセキュリティ連絡会」との連携を図る。

- ① イノベーション部会が令和3年度に取りまとめた分野間連携に関する報告書、また、地方からデジタル実装を進める「デジタル田園都市国家構想」や「地方創生2. 0」を踏まえ、北陸地域の課題解決や活性化につながる「分野間連携」に関する調査研究活動を継続して実施する。
- ② 北陸地域のDX推進に向けての技術シーズ、ニーズの取りまとめ、更には各種分野におけるDXに向けたコンサルティング機能（人材育成等）、支援策の検討を進める。

# 令和7年度 イノベーション部会 活動結果(1)

部会長	北陸先端科学技術大学院大学 副学長 教授 丹 康雄
副部会長	NPO法人北陸地域活性化推進協議会 代表理事 金平 勲
会 員	部会員 26名 地方公共団体:4、ICT事業者等:10、経済団体・学校等:10、国等:2 ワーキング・グループ(WG) 14名 委員11、オブザーバー3
活動状況	<p>1 事務局打合せ 令和7年6月25日(水) 金沢東急ホテル 丹部会長、島田WG主査、事務局により、令和7年度の活動に関して打ち合わせを実施</p> <p>2 第20回会合 令和7年9月4日(木) ITビジネスプラザ武蔵及びオンライン(Zoom) 会場:9名、オンライン12名 【議事】 1 地方創生2.0に向けた取組について 講師: 内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部 事務局 宮川 惇 参事官補佐 2 富山県、石川県及び福井県のデジタル支援施策等の取り組みについて 3 令和7年度の活動について 4 最近の動向紹介 イノベーション部会 丹 康雄 部会長 5 その他</p> <p>3 施設見学会 令和7年10月10日(金) 加賀東芝エレクトロニクス株式会社 会場:13名 加賀東芝エレクトロニクス株式会社のご協力のもと、IoTデバイスでも使用されているパワー半導体の新製造棟(令和6年5月竣工)の見学会を実施</p>

# 令和7年度 イノベーション部会 活動結果(2)

活動状況	<p>4 北陸地域ICTイノベーションセミナー2025 令和7年12月16日(火) KKRホテル金沢及びオンライン(Zoom) 会場:29名、オンライン:31名 【内容】 講演1 電気通信事業法に基づく端末機器の基準認証制度について 講師 総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 電気通信技術システム課 端末認証分析官 沼田 文彦 氏 講演2 技適制度の現状及び今後の展開 講師 総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 認証推進室 課長補佐 太田 伸一 氏 施策紹介1 国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の取組について 説明者 NICT オープンイノベーション推進本部 ソーシャルイノベーションユニット 戦略的プログラムオフィス マネージャー 山本 邦彦 氏 施策紹介2 ICT領域における環境変化 ～リスクマネー供給の重要性～ 説明者 株式会社海外通信・放送・郵便事業支援機構 投資戦略部シニアフェロー 園田 岩雄 氏 FORWARD(持続可能な電波有効利用のための基盤技術研究開発事業)の取組状況報告 持続可能な河川環境保全のための連合学習を活用した周波数共同利用技術に関する研究開発【令和7年度採択案件】 発表者 国立大学法人福井大学 教授 橋 拓至 氏</p> <p>5 第21回会合 令和8年3月26日(木)～3月31日(火)【書面審議】 【議事】 (1) 令和7年度活動報告(報告事項) (2) 令和8年度の活動について</p>
------	---



第20回会合の様子

北陸情報通信協議会イノベーション部会（部会長：丹 康雄 北陸先端科学技術大学院大学 副学長 教授）は、令和7年9月4日（木）、ITビジネスプラザ武蔵とオンラインによるハイブリッド方式により、第20回会合を開催し、会場9名、オンライン12名の計21名が参加しました。

始めに、内閣官房新しい地方経済・生活環境創生本部事務局 参事官補佐 宮川 惇 氏から「地方創生2.0に向けた取組について」と題し、地方創生2.0の基本姿勢・視点や政策パッケージなどの「地方創生2.0基本構想」の概要や、新しい地方経済・生活環境創生交付金についての紹介がありました。



内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局 参事官補佐 宮川 惇 氏



イノベーション部会 丹 部会長

続いて、富山県（商工労働部地域産業振興室 経営支援課）、石川県（商工労働部産業政策課）及び福井県（産業労働部経営改革課）から令和7年度の各県の中小企業DX化などのデジタル支援施策の紹介が行われました。

次に、事務局から、令和7年度活動方針に基づき、具体的な活動内容とスケジュールの提案があり、IoT施設見学会や北陸地域ICTイノベーションセミナー2025の実施について確認しました。（活動スケジュールは右図のとおり）

最後に、丹 部会長から「最近の動向紹介」として、新地方創生交付金デジタル実装型に関する北陸地域での採択案件の状況やIoT機器のセキュリティレベルを見える化する「JC-STAR制度」への対応状況について説明がありました。また、令和6年能登半島地震での被災直後の通信サービスの途絶という経験を踏まえ、NTN（非地上系ネットワーク）への期待が高まっているとの報告がありました。

## イノベーション部会・令和7年度 活動スケジュール

【テーマ】北陸地域の特徴を活かしたDX推進に向けての技術シーズによる課題解決、更にはDXの全国展開の推進

	4/7	5/7	6/7	7/7	8/7	9/7	10/7	11/7	12/7	1/8	2/8	3/8
部会	▼ 第20回部会(9/4) ・講演「地方創生2.0に向けた取り組み」 ・北陸から「デジタル化支援施策の紹介」 ・部会の部会の活動の具体化 ▼ 第21回部会 ・R7年度活動報告 ・R8年度の活動の方向性											
WG	WG											
WG 活動内容	① 北陸地域の課題解決や活性化につながる分野別連携に関する調査研究活動 ② 北陸地域のDX推進に向けた技術シーズ、ニーズの取りまとめ ・各種分野におけるDXに向けたコンサルティング機能(人材育成等)の検討 ・導入支援後の収集、検討 等 ※事務局が協賛先を決定											
セミナー、見学会等	▼ IoT施設見学会(加賀東芝・10/10) ※IoT施設見学会 実施場所は令和7年度中に検討 ▼ 北陸地域ICTイノベーションセミナー2025											
【参考】	全国型IoTイベント(11/8) ▼ 北陸サイバーセキュリティ連絡会など サイバーセキュリティ2026 ▼ 北陸サイバーセキュリティ連絡会 ▼											

# 北陸情報通信協議会イノベーション部会 施設見学会を開催

北陸情報通信協議会のイノベーション部会（部会長：丹 康雄 北陸先端科学技術大学院大学 副学長 教授）は、令和7年度の活動計画に基づき、令和7年10月10日（金）に施設見学会を開催し、13名が参加しました。



シリコンの薄板（ウエハー）及び半導体の展示について説明を受ける参加者

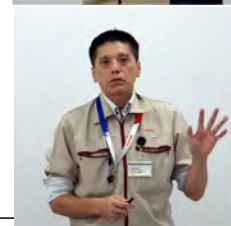
今回の見学会は、IoTデバイスでも使用されているパワー半導体<sup>※</sup>を製造している加賀東芝エレクトロニクス株式会社の全面的なご協力のもと実施しました。同社の会社概要説明やパワー半導体の概要説明をしていただいた後、ビデオ動画やVR体験なども交え、前工程・後工程の製造棟の見学をさせていただきました。

※ 高速でスイッチングし、高電圧・大電流を制御して、電力を変換する半導体のことで、主に自動車やIT産業機器等に活用されているもの。

会社概要説明では、同社の特色として半導体製品の設計・開発からチップ製造、組立加工まで一貫した生産体制であることが挙げられました。また、パワー半導体の重要性が今後さらに高まることを見据え、令和6年5月に新製造棟を竣工し、令和7年2月に量産開始。これにより、生産能力を2021年度比で2.5倍に増強するとともに、カーボンニュートラルの実現に貢献していくと説明がありました。

新製造棟の見学では、半導体の回路を焼き付けるための高純度シリコンの薄板（ウエハー）を、ロボットやセンサー、AIシステムを活用して自動搬送する様子が見られました。クリーンルームでのオペレーション作業はほとんどなく、少人数で対応可能であるとの説明がありました。また、組立工程の見学では、同社内にて作成したVRを用いて、通常は見ることができない機械内部の工程を、臨場感のある映像で見学することができました。

最後の質疑応答では、サイバーセキュリティの対策状況やネットワーク障害への対応について、質問が出されました。



会社概要の説明を行う様子  
 (上)加賀東芝エレクトロニクス(株) 取締役 総務部長 片岡 譲 氏  
 (下)同社 総務部 総務安全担当 参事 西野 真樹 氏



参加者集合写真(前列中央:丹 部会長)

※加賀東芝エレクトロニクス(株)のホームページ <https://www.toshiba-kaga.co.jp/>

セミナープログラム

- ・主催者挨拶**  
 総務省北陸総合通信局 局長 片山 寅真  
 北陸情報通信協議会  
 イノベーション部会 部会長 丹 康雄
- ・講演 電気通信事業法に基づく端末機器の基準  
 認証制度について**  
 総務省 総合通信基盤局  
 電気通信事業部 電気通信技術システム課  
 端末認証分析官 沼田 文彦
- ・講演 技術制度の現状及び今後の展開**  
 同 電波部 電波環境課  
 認証推進室 課長補佐 太田 伸一
- ・施策紹介 国立研究開発法人情報通信研究機構  
 (NICT)の取組みについて**  
 NICTオープンイノベーション推進本部  
 ソーシャルイノベーションユニット  
 戦略的プログラムオフィス  
 マネージャー 山本 邦彦
- ・施策紹介 ICT領域における環境変化  
 ～リスクマネー供給の重要性～**  
 株式会社海外通信・放送・郵便事業支援機構  
 投資戦略部 シニアフェロー 園田 岩雄
- ・FORWARDの取組状況報告【令和7年度採択案件】  
 持続可能な河川環境保全のための連合学習を活用した  
 周波数共同利用技術に関する研究開発**  
 国立大学法人福井大学 教授 橋 拓至

北陸情報通信協議会（会長 金井 豊 北陸経済連合会会長）は、総務省北陸総合通信局（局長 片山 寅真）、ICT研究開発機能連携推進会議（会長 細野 昭雄 株式会社アイ・オー・データ機器代表取締役会長兼社長）との共催により、令和7年12月16日にKKRホテル金沢及びオンラインにて「北陸地域ICTイノベーションセミナー2025」を開催しました。オンラインを含め60名の参加があり、北陸地域のICTの利活用の更なる促進に向け理解を深めました。（セミナーのプログラムは左に記載）

主催者挨拶のあと、最初に、総務省電気通信技術システム課の沼田氏から、電気通信事業法に基づく端末機器の基準認証制度について、IoT機器のセキュリティ対策に係る基準の見直し等のトピックスの紹介がありました。続いて、同省電波環境課の太田氏から、「ソフトウェア無線」の普及や無線設備の小型化等に応じた技術マークの表示や管理の在り方に関して、電波法に基づく制度の現状と今後の展開について説明がありました。

その後、（国研）情報通信研究機構（NICT）の山本氏から、ICT分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関であるNICTの取組について、（株）海外通信・放送・郵便事業支援機構（JICT）の園田氏から、日本企業の海外展開を支援するICT専門ファンドであるJICTの取組や支援事例について紹介がありました。

最後に、令和7年度のFORWARD（持続可能な電波有効利用のための基盤技術研究開発事業）の取組状況報告として、福井大学の橋教授から、採択案件の研究概要とこれまでの成果発表がありました。持続可能な河川環境保全を実現するデジタルインフラの研究開発を目的とし、AIとローカル5Gを活用した周波数共同利用による連合学習や学習スケジューリング技術について説明がありました。



オンラインとの併催により開催したセミナーの様様



主催者挨拶  
片山北陸総合通信局長



主催者挨拶  
丹イノベーション部会長



総務省電気通信技術  
システム課 沼田氏



総務省電波環境課  
太田氏



NICT 山本氏



JICT 園田氏



福井大学 橋教授



FORWARD研究課題のポスター展示

# 令和7年度 北陸サイバーセキュリティ連絡会報告

令和8年5月

## 北陸サイバーセキュリティ連絡会

北陸サイバーセキュリティ連絡会は、北陸におけるサイバーセキュリティの重要性についての認識の醸成や情報交換の活性化と、セミナーや訓練等を実施することで、サイバーセキュリティの向上に資する人材の発掘・育成の円滑化等を目的とした様々な取り組みを行っています。

また、産学官の連携による地域単位の事業者のセキュリティ対策強化のため、地域に根付いた「セキュリティコミュニティ(地域SECURITY)」として位置付けられています。

### 【組織の改正】

令和2年3月に設置された北陸サイバーセキュリティ連絡会は、令和4年6月1日、北陸におけるサイバーセキュリティの重要性の認識醸成や情報交換の活性化を更に図るため、構成員を北陸情報通信協議会会員以外にも拡大することとして、「北陸サイバーセキュリティ連絡会開催要綱」を改正し、同協議会から独立した組織となりました。

北陸サイバーセキュリティ連絡会は、引き続き同協議会との連携を図り、サイバーセキュリティに関する取り組みを推進していきます。

座長	北陸先端科学技術大学院大学 副学長 教授 丹 康雄
構成員	地方公共団体3、業界団体7、事業者等14、有識者5、研究機関等2、国3 (オブザーバー:3(県警本部))
活動状況	<p>1 セキュリティ・キャンプ2025ミニ(石川開催)の公開講座・専門講座の開催【後援】</p> <p>北陸地域での情報セキュリティ技術に関する人材育成を図るイベントとして、広く一般の方を対象に情報セキュリティ啓発の場として「公開講座」、25歳以下の学生を対象として業界の専門家による講演と演習を行う「専門講座」を開催した。</p> <p>(1) 公開講座</p> <p>令和7年11月28日(金) 場所:TKP金沢駅新幹線口会議室</p> <p>主催:北陸セキュリティフォーラム(ICT研究開発機能連携推進会議セキュリティ人材成分科会) (一社)セキュリティ・キャンプ協議会</p> <p>共催:中部経済産業局</p> <p>後援:北陸サイバーセキュリティ連絡会、北陸総合通信局、北陸情報通信協議会、 (独)情報処理推進機構(IPA)</p> <p>講演-1 サイバークリミナル 講師:石川県警察本部 サイバー犯罪対策課 井口 慎一郎 氏</p> <p>講演-2 大阪・関西万博のサイバーセキュリティに関する取組みについて 講師:2025年日本国際博覧会協会 SOCチームリーダー 野村 研仁 氏</p> <p>講演-3 CPSによる大型ビルシステムにおける見守り検知技術と検証プラットフォーム 講師:金沢工業大学工学部 電子情報システム工学科 横谷 哲也 教授</p> <p>講演-4 セキュリティ・キャンプ紹介 講師:一般社団法人セキュリティ・キャンプ協議会 河合 将隆 氏</p> <p>参加者:50名</p>

活動状況	<p>(2) 専門講座</p> <p>令和7年11月29日(土) 場所:金沢工業大学 扇が丘キャンパス</p> <p>主催:金沢工業大学、金沢大学大学院自然科学研究科電子情報通信学専攻、 北陸先端科学技術大学院大学 デジタル化支援センター、 北陸セキュリティフォーラム(ICT研究開発機能連携推進会議セキュリティ人材成分科会) (一社)セキュリティ・キャンプ協議会、(独)情報処理推進機構(IPA)</p> <p>共催:中部経済産業局</p> <p>後援:北陸サイバーセキュリティ連絡会、北陸総合通信局、石川県、石川県警察本部</p> <p>講義-1 サイバー犯罪から考える高い倫理観 石川県警察本部 サイバー犯罪対策課 庄司 弘幸 氏</p> <p>講義-2 暗号のままです計算しよう ~B/FV編~ 京都大学大学院 情報学研究科 情報学専攻 通信情報システムコース 松岡 航太郎 氏</p> <p>講義-3 ITエンジニアとして知っておいてほしい、電子メールという大きな穴 千葉工業大学 永見 拓人 氏</p> <p>参加者:15名</p> <p>2 「サイバーインシデント演習 in 富山」の開催【共催】</p> <p>令和7年12月10日(水) 場所:ボルファートとやま</p> <p>中小企業・団体等に所属する経営層やセキュリティ責任者、情報システム運用担当者等を対象として、最近のインシデントの発生状況や、被害拡大を防ぐための基本的な対策についての講演と、擬似的なインシデント発生で効果的な対応を体験する演習を実施した。</p> <p>共催:北陸サイバーセキュリティ連絡会、北陸総合通信局、中部経済産業局</p> <p>後援:(一社)富山県情報産業協会、北陸情報通信協議会</p> <p>講演 サイバー攻撃の情勢及び対応策について</p> <p>演習 セキュリティ事件・事故発生時の効果的な対応について 講師:(株)川口設計 代表取締役 川口 洋 氏</p> <p>参加者:26名</p>
------	--

<p>活動状況</p>	<p><b>3 北陸セキュリティフォーラムセミナーの開催【後援】</b></p> <p>令和8年2月6日(金) 場所: 金沢勤労者プラザ</p> <p>情報セキュリティに関連する国家認証制度やサイバー攻撃の動向に関する講演、被害事例が後を絶たないランサムウェア攻撃の対処について日本サイバー犯罪対策センター(JC3)が提供するゲーム形式の演習を行うセミナーを開催した。</p> <p>主催: 北陸セキュリティフォーラム (ICT研究開発機能連携推進会議セキュリティ人材育成分科会)                  共催: ICT研究開発機能連携推進会議                  後援: 北陸サイバーセキュリティ連絡会、北陸総合通信局、北陸情報通信協議会</p> <p>講演-1 競争力を高める国家認証。技術情報管理認証制度(TICS)活用のすすめ                  講師: 宮永セキュアコンサル 宮永 博文 氏</p> <p>講演-2 サイバーセキュリティ動向2026                  講師: ネットワンシステムズ(株) 角田 玄司 氏</p> <p>講演-3 AIを活用するオフENSIVEセキュリティ                  講師: (株)フォアーズ 蒔 綾人 氏</p> <p>演習 キャット&amp;チョコレート ランサムウェア攻撃対処編(JC3)                  進行: NECソリューションイノベータ(株) 高江 茂 氏</p> <p>参加者: 34名</p> <p><b>4 「ビジネス」を護るサイバーセキュリティデイズ2026の開催【共催】</b></p> <p>サイバーセキュリティに関するスキルと意識の向上を目的として、企業・組織に所属するすべての方々を対象に、最新のサイバー攻撃事案等を解説するセミナーと、実践的な演習を併せて開催した。</p> <p>主催: 北陸総合通信局、(国研)情報通信研究機構、北陸情報通信協議会                  共催: 北陸サイバーセキュリティ連絡会、中部経済産業局、北陸経済連合会                  協力: 富山県警察本部、石川県警察本部、福井県警察本部、富山県商工会議所連合会、                  石川県商工会議所連合会、(一社)福井県商工会議所連合会、(一社)富山県情報産業協会、                  (一社)石川県情報システム工業会、(一社)福井県情報システム工業会</p>
-------------	--

<p>活動状況</p>	<p><b>(1) Seminar Day(サイバーセキュリティセミナー) ～パネルディスカッション～</b></p> <p>令和8年2月16日(月) 場所: 金沢東急ホテル</p> <p>第1部 小さな会社は狙われない」は本当か? ～地方中小企業を蝕むサイバー攻撃のリアル～                  ファシリテーター: 北陸先端科学技術大学院大学 特任教授 篠田 陽一 氏                  パネリスト: (株)FFRIセキュリティ yarai事業本部 中西 克彦 氏                  (株)川口設計 代表取締役 川口 洋 氏</p> <p>第2部 あれから1年、どう変わった? ～ローコストから始めた中小企業のサイバー防戦記～                  ファシリテーター: 北陸先端科学技術大学院大学 特任教授 篠田 陽一 氏                  パネリスト: (株)FFRIセキュリティ yarai事業本部 中西 克彦 氏                  (株)川口設計 代表取締役 川口 洋 氏                  NECソリューションイノベータ(株) 第一サイバーセキュリティ統括部 高江 茂 氏                  ウイルフラップ(株) 代表取締役 高 穂 葉 氏                  ウイルフラップ(株) 情報システム担当 町 友 貴 氏</p> <p>参加者: 50名</p> <p><b>(2) Practice Day(実践的演習 Micro Hardening)</b></p> <p>令和8年2月17日 場所: 金沢商工会議所</p> <p>参加者11名が3チームに分かれ、架空の電子商取引サイトに対する様々なサイバー攻撃への対処方法を実地形式で学んだ。演習と振り返りの1セット75分を3セット実施し、様々な対処方法を試すことでエンジニアとしての能力向上を図った。</p> <p>ファシリテーター: (株)川口設計 代表取締役 川口 洋 氏</p> <p>参加者: 11名</p>
-------------	---

活動状況	<p>5 第7回北陸サイバーセキュリティ連絡会(会合)</p> <p>令和8年3月9日(月) 場所:石川県文教会館(※オンライン併催)</p> <p>議事:(1)北陸サイバーセキュリティ連絡会・令和7年度活動報告                  (2)令和7年度・サイバーセキュリティに関する施策等の紹介                  ア 経済産業省中部経済産業局 イ 経済産業省近畿経済産業局 ウ 総務省北陸総合通信局                  エ 富山県警察本部 オ 石川県警察本部 カ 福井県警察本部                  キ 独立行政法人情報処理推進機構(IPA)</p> <p>参加者:会場参加27名、オンライン参加10名 計37名</p> <p>※ 第7回連絡会終了後、「北陸サイバーセキュリティ連絡会構成員」及び「北陸情報通信協議会ICT安心部会構成員」を対象に、サイバーセキュリティに関するセミナーを開催した。</p> <p>演題 「サイバーサクラの取り組みと最近のサイバー攻撃の動向について」                  講師 株式会社ict4e 代表取締役 原 秀一 氏</p> <p>参加者:会場参加23名、オンライン参加11名 計34名</p>
	<p>6 NCO重要インフラニュースレターの情報提供</p> <p>国家サイバー統括室(NCO)が月2回発行している「重要インフラニュースレター」を、連絡会構成員及び北陸情報通信協議会会員に随時メールによる情報提供を行った。</p> <p>7 サイバーセキュリティに関する行事の情報提供</p> <p>連絡会が主催・共催・後援する行事の案内、サイバーセキュリティ関連情報や連絡会構成員に有益なセミナー等の情報をお知らせするため、連絡会構成員に随時メールによる情報提供を行った。</p>

## サイバーセキュリティイベント「サイバーインシデント演習 in 富山」を開催

総務省北陸総合通信局(局長 片山 寅真)は、令和7年12月10日(水)に経済産業省中部経済産業局及び北陸サイバーセキュリティ連絡会との共催で、中小企業・団体等に所属する経営層やセキュリティ担当者を対象とした「サイバーインシデント演習 in 富山」を開催しました。北陸3県の情報サービス業、通信業、放送業、製造業など幅広い分野の企業や団体から26名が参加しました。

株式会社川口設計 代表取締役 川口 洋 氏を講師に招き、第一部では最近のサイバーセキュリティインシデントの発生状況や、被害拡大を防ぐための基本的な対策について解説しました。第二部・第三部では、参加者がパソコン操作や机上演習を通じて、擬似的なインシデント対応を体験し、サイバーセキュリティへの理解を深めました。本演習の参加者からは、「実践的で、理解しやすかった」「自社のセキュリティ対策を見直すきっかけにしたい」などの声が寄せられました。

北陸総合通信局は、今後も共催団体と連携し、北陸地域の企業・団体におけるサイバーセキュリティ対策の強化と人材育成に取り組んでまいります。

### 開催概要

- 【日 時】 令和7年12月10日(水) 13時~17時
- 【会 場】 ボルファートとやま(富山県富山市奥田新町8-1)
- 【講 師】 株式会社川口設計 代表取締役 川口 洋 氏

### プログラム

#### ◆第一部 講演

「サイバー攻撃の情勢及び対応策について」  
 昨今話題となっているインシデント事例などを紹介しながら、インシデント発生時に備えた対策、対応の流れを説明

#### ◆第二部 実機演習

グループワーク形式でパソコンを使用して擬似的なインシデントリスクを体験

#### ◆第三部 机上演習

業務システムに対するサイバー攻撃を想定し、インシデント発生から対応の検討、評価までのサイクルをグループでディスカッション



<講演に真剣に耳を傾ける参加者>



<株式会社川口設計 川口 洋 氏>



<演習におけるディスカッション>

## 「北陸セキュリティフォーラムセミナー」を開催

主催：北陸セキュリティフォーラム 後援：北陸サイバーセキュリティ連絡会



北陸セキュリティフォーラム  
会長の開会あいさつ  
金沢工業大学  
教授 向井宏明氏

北陸セキュリティフォーラム（ICT研究開発機能連携推進会議セキュリティ人材育成分科会、分科会長：金沢工業大学 教授 向井宏明）は、北陸サイバーセキュリティ連絡会（座長：北陸先端科学技術大学院大学 副学長 教授 丹康雄）、北陸総合通信局及び北陸情報通信協議会からの後援により、令和8年2月6日に金沢勤労者プラザにおいて、「北陸セキュリティフォーラムセミナー」を開催し、34名が参加しました。

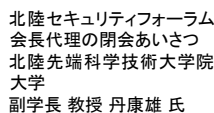
最初に、宮永セキュアコンサルの宮永博文氏から、「競争力を高める国家認証。技術情報管理認証制度（TICS）活用のすすめ」と題して、国家制度であるTICSについて、民間の同様の制度との比較も交えながら説明がありました。

次に、ネットワンシステムズ株式会社の角田玄司氏から、「サイバーセキュリティ動向2026」と題して、最新のサイバー攻撃の動向について説明のうえ、セキュリティ対策は「基本」と「継続した運用」が大事であると強調されました。

続いて、株式会社フォアゼットの部綾人氏から、「AIを活用するオフェンシブセキュリティ」と題して、AIの特性やAIを活用したセキュリティ対策についての説明がありました。

講演の後には、NECソリューションイノベータ株式会社の高江茂氏の進行により、ランサムウェア攻撃の対処について、日本サイバー犯罪対策センター（JC3）が提供するカードゲーム形式での演習が行われました。参加者は、4つのグループに分かれ、ゲームを通じてインシデント対応について議論を交わしました。

最後に、北陸先端科学技術大学院大学 副学長 教授の丹康雄氏から、分科会設立の経緯について説明するとともに、閉会のあいさつとして、北陸地域での情報セキュリティに関する取組強化への期待が述べられました。



北陸セキュリティフォーラム  
会長代理の開会あいさつ  
北陸先端科学技術大学院  
大学  
副学長 教授 丹康雄氏

主催 北陸セキュリティフォーラム（ICT研究開発機能連携推進会議セキュリティ人材育成分科会）  
後援 北陸サイバーセキュリティ連絡会、北陸総合通信局、北陸情報通信協議会  
協賛 NECソリューションイノベータ株式会社、北陸通信ネットワーク株式会社、ネットワンシステムズ株式会社、株式会社アイ・オー・データ機器



北陸セキュリティフォーラムセミナーの様子



宮永セキュアコンサル  
宮永博文氏



ネットワンシステムズ(株)  
角田玄司氏



(株)フォアゼット  
部綾人氏



NECソリューションイ  
ノベータ(株)高江茂氏

## 「『ビジネス』を護るサイバーセキュリティデイズ2026」を開催

### Seminar Day（サイバーセキュリティセミナー）

開催日：令和8年2月16日  
会場：金沢東急ホテル



パネルディスカッション 第2部の模様



#### 【ファシリテーター】

- 篠田 陽一氏  
北陸先端科学技術大学院大学  
情報環境・DX統括本部  
遠隔教育研究イノベーション  
センター 特任教授



#### 【パネリスト】

- 中西 克彦氏  
(株)FFRIセキュリティ yara!事業本部  
セキュリティサービス担当 副本部長
- 川口 洋氏  
(株)川口設計 代表取締役

- 高江 茂氏  
NECソリューションイノベータ(株)  
第一サイバーセキュリティ統括部  
第二LCMグループ シニアプロフェッショナル
- 高橋 榮氏  
ウイルフラップ(株) 代表取締役
- 町 友貴氏  
ウイルフラップ(株) 情報システム担当

北陸サイバーセキュリティ連絡会（座長：丹 康雄 北陸先端科学技術大学院大学 副学長 教授）は、北陸情報通信協議会（会長：金井 豊 北陸経済連合会会長）、総務省北陸総合通信局、（国研）情報通信研究機構（NICT）、経済産業省中部経済産業局及び北陸経済連合会との共催により、2月16日、17日の2日間にわたりセミナーと演習から構成する「『ビジネス』を護るサイバーセキュリティデイズ2026」を開催しました。

1日目のSeminar Dayは、サイバーセキュリティセミナーを2部形式のパネルディスカッションとして開催し、約50名が参加しました。

第1部は「『小さな会社は狙われない』は本当か？～地方中小企業を蝕むサイバー攻撃のリアル～」をテーマに、北陸先端科学技術大学院大学の篠田特任教授をファシリテーターに迎え、パネリストの中西氏と川口氏から、国内におけるサイバー攻撃の実態や、その脅威から会社を守るための対策についてご講演いただき、ディスカッションが行われました。

第2部は、高江氏、高氏及び町氏をパネリストに加え、「あれから1年、どう変わった？～ローコストから始めた中小企業のサイバー防戦記～」と題して、昨年のセミナー以降、ウイルフラップ(株)が社内で取り組んだ対策や、情報システム担当者の実務レベルでの課題などについて、多角的な観点から意見が述べられ、活発な議論が交わされました。

2日目のPractice Dayは、サイバー攻撃に対処する能力の向上を図る実践的演習「Micro Hardening」を開催しました。講師である(株)川口設計の川口氏の指導のもと、組織のサイバーセキュリティ担当者等の11名が3チームに分かれ、架空の電子商取引サイトに対する様々なサイバー攻撃への対処方法を実地形式で学びました。演習と振り返りの1セット75分を3セット実施することで、様々な対処方法を試し、エンジニアとしての能力を磨きました。

その後、NICTナショナルサイバートレーニングセンターの横山氏から25歳以下を対象にした創造的なセキュリティ人材育成プログラム「SecHack365」について説明がありました。

### Practice Day (Micro Hardening)

開催日：令和8年2月17日  
会場：金沢商工会議所



Micro Hardening（サイバー攻撃対処トレーニング）  
に取り組む参加者



(株)川口設計 代表取締役  
川口 洋氏



NICTナショナルサイバ  
ートレーニングセン  
ター  
横山 輝明氏



北陸サイバーセキュリティ連絡会第7回会合の様子＝令和8年3月9日

北陸サイバーセキュリティ連絡会（座長：丹 康雄 北陸先端科学技術大学院大学 副学長・教授）は、令和8年3月9日（月）石川県文教会館において、第7回会合を開催し、オンライン参加を含め37名が参加しました。

最初に、丹座長から開会の挨拶を受けた後、連絡会事務局から、サイバーセキュリティに関するセミナーの共催など、令和7年度の連絡会の活動について報告がありました。

その後、①中部経済産業局、②近畿経済産業局、③北陸総合通信局、④富山県警察本部、⑤石川県警察本部、⑥福井県警察本部、⑦独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の7つの機関から、サイバーセキュリティの取り組みについての紹介がありました。

最後に、北陸サイバーセキュリティ連絡会として、令和8年度においても引き続き北陸情報通信協議会（会長：金井 豊 北陸経済連合会会長）などと連携を図り、サイバーセキュリティに関する取り組みを推進していくことを確認し、会合を終えました。



連絡会 丹 康雄 座長

会合に引き続き、北陸情報通信協議会のICT安心安全部会（部会長：四藤 一成（一社）いしかわエネルギーマネジメント協会）との合同で、株式会社ict4e 原 秀一 氏を講師に迎え、「サイバーサクラの取り組みと最近のサイバー攻撃の動向について」と題してセミナーを開催しました。

「サイバーサクラ」についてのご説明では、体験しながらサイバーセキュリティを学ぶ教育プログラムとして、全国の中高生向けに年間を通じて複数回のオンラインイベントを開催しており、「サイバーセキュリティへの興味を喚起する最初の窓口となっている」とのお話がありました。



セミナーで講演する(株)ict4e 代表取締役 原 秀一 氏

## 【北陸サイバーセキュリティ連絡会】

北陸におけるサイバーセキュリティの重要性についての認識の醸成や情報交換の活性化と、セミナーや訓練等を実施することで、サイバーセキュリティの向上に資する人材の発掘・育成の円滑化等を目的とした様々な取り組みを行っています。

また、産学官の連携による地域単位の事業者のセキュリティ対策強化のため、地域に根付いた「セキュリティコミュニティ(地域SECURITY)」として位置付けられています。



令和8年度 定期総会資料

別 冊

令和7年度 部会等活動報告

令和8年5月



北陸情報通信協議会